

もっと強く、もっと優しいまち 神戸へ!

さとうまちこ通信 9号

発行元：日本維新の会 神戸市議員団
〒650-8570
神戸市中央区加納町6-5-1 1号館29階
TEL.078-322-0185
FAX.078-322-0184
E-mail:info@kobe-ishin.jp
https://kobe-ishin.jp



予算特別委員会(健康局・福祉局)にて、質疑いたしました!

質疑 予算特別委員会 (第2分科会) 2021.3.3 健康局

新型コロナウイルス感染者への対策

さとう: 神戸市では、**自宅療養や入院調整中で自宅にて療養している患者さん**がこれまでも数多くおられた。こういった患者の容体が急変しないよう、地域の医療機関が連携して患者の重症化を防止するための対応が必要であると考えている。また、保健師により自宅療養者の健康観察をしていると思うが、保健師の手が足りないのでは、気持ちのケアまで踏み込んでいくことは現状では難しい。**積極的に精神科医やカウンセラーなどのカウンセリングを行うべき**だと考えるがどうか。

花田健康局長: 自宅療養者、併せて入院調整中のもも含めて健康観察については、アプリまたは電話にて毎日、保健所のほうで行っている。パルスオキシメーターを全員に貸し出し、数値が低下した場合には保健所に至急連絡いただき、場合によっては救急搬送を行う。さらに、自宅療養者、入院調整中の方に対する健康管理を充実させていく。服薬、コロナ以外の持病などの服薬について、かかりつけ医のほうで対応することができないかということ、現在、神戸市医師会のほうと協議を行っている。

一方、メンタル面、今後の病状の悪化、周囲の偏見に対する不安。自宅にいるけど周りにばれたらどうしようとか、追い込まれた不安などというのが非常にある。心理面でのケアが必要な方については、まず保健師が寄り添って傾聴するなどの支援を行っているが、自宅療養、それと宿泊療養施設においても、少し悪くなってきた方については、治療の要否判断が必要な場合ということになってきたら、精神保健福祉センターの精神科のドクターが直接訪問、電話ということで対応をさせていただいている。

メンタル面を含め、自宅療養、入院調整中の方につきまして、きっちりと対応していきたい。

さとう: 当然、今でも気持ち落ち込んでいると自ら申告される方には御案内されていると思うが、**鬱になっていることを御自分でも気づかない**という場合もある。チェックシートやホームページなどを活用しながら、御自身の状態を皆さんに再確認していただくという方法もあるかと思う。(コロナに起因する自殺者が多い事を鑑みて)

助成、それと、患者さん、家族の生活の質をよくしていく面。その面から、議員言われますように、まず手続のことをきちんとやっていくということが大事だと思っており、この難病の制度は結構書類とか、そういうのが多く要る場合がある、ややこしいところもあるので、**必要な書類をフローチャート図の作成をし、認定までの流れを明示したりして説明のものを作っている**。申請後、給付が認められた後には受給者証を配るが、そのときに、医療費負担、更新の手続、療養生活の質を保つために、療養に関する生活に関する支援をするための窓口の場所、その連絡方法などを保健福祉サービスの御案内という中に難病として入れている。

もう一つ、**患者さん御家族の御意見、思いの把握**ということについては、令和元年に神戸大学に委託をし、**神戸市の難病相談支援センターを設置**。専門職がおられ、難病の方、治療を受けられた方、大学の患者さんだけではなく、いろいろな病院でも治療をされておられる難病の方が行き、相談をしたり生活の指導をしていただいたりするような場所となっている。神戸難病相談室というのが難病の患者さんが設置しておられ、それに対する助成をし、情報共有をしている。また、**公式的な御要望をお聞きする場所としては、難病対策懇談会というものも設置し、現状を把握している**。継続して充実させ、努めたい。

さとう: 実際にお困りという難病を持つ70代の女性のお悩みをお聞きした。行政が細かなサービスを行っていたとしても、それが当事者に届かないという意味をなさない。御家族がなく、御近所にお知り合いのいない方には特に、**医師以外の第3の目という意識をしながらの啓発をお願いする**。



Topic.1

産官学医で光免疫療法を推進

神戸市と楽天メディカルジャパン、神戸大学院医学研究科は、2月9日、新たながん治療の研究開発に関する連携、協働協定を結びました。同社の新薬と、がん光免疫療法を用いて頭頸部がん治療に取り組みます。この療法を開発したのは西宮市出身の小林久隆医師。数年前、楽天の三木谷社長が、お父様で元神戸大学経済学部教授でいらっしゃった三木谷良一さんのがんを何とか直す治療法がないかと探しており、この治療法に行き着いたのですが、間に合わなく、お父様はなくなってしまいました。しかし、この光免疫療法に感動した三木谷社長は、楽天メディカルを設立。140億円を出資し、小林久隆さんを応援する事とし、小林さんの方も、薬剤のネーミングを三木谷さんのお父様の頭文字、「R」と「M」を取り、また、生まれ年が1929年でしたので、RM1929とされたそうです。そのRM1929と治療機械が、無事、昨年9月に国の正式承認を得ました。その後、RM1929は、「アキラルックス」と名を改めました。当面は、首から上の頭頸部のがんに使われるそうです。また、同年12月には「公的医療保険の適用」も決まりました。

すでに未来のノーベル賞候補とも言われているこの光免疫療法を、神戸市、楽天メディカルジャパン、神戸大学がタッグを組んで、本格的に実用化に向け推進していく事で、市民の皆様が先進的ながん治療を受けられる早期な体制の構築が期待できます。

難病に関わる制度について

さとう: 難病に関わる制度は複雑かつ難解であることから、制度の仕組みを理解するのに時間がかかるお聞きする。難病患者、その御家族の困っていることを把握し、改善できるところは改善していく必要があると考える。**現在どのような形で把握を行っているのか**、今後の予定を含め、お聞かせいただきたい。

伊地智健康局担当局長: 難病に関しましては大きい2つの柱がある。医療に関する

お知らせ 新型コロナウイルス感染症について

新型コロナワクチン接種について

毎年行われているインフルエンザワクチン接種による発症予防効果は50%程度と言われておりますが、**新型コロナウイルスワクチン接種による発症予防効果は約95%**と報告されています。このワクチンを受けていただくことにより、新型コロナウイルスに感染しても、発症や、重症化を防ぐ事ができます。それにより、医療ひっ迫を防ぐ事にもなり、通常医療の正常化を図ることになり、世の中の新型コロナウイルスの感染拡大を抑える事ができます。

アナフィラキシーショックが懸念されていますが、神戸市ではこういった事態に備え、エピペン(アドレナリン注射)を配備する他、各種医療機関への連携をしながら万全の備えを整えております。

第一便のワクチンは、ファイザー製ワクチン(期間を空けて二度接種)で、現在は医療従事者への接種が行われています。(ワクチン接種は強制ではなく、任意です。)

神戸大学中和抗体医薬品開発への支援について

昨年12月、兵庫県は、神戸大学感染症センターの森康子教授のチームが行う新型コロナウイルス感染症治療に有効な中和抗体医薬の開発へ、6千万円の支援を行うと発表しました。一方、神戸市および、神戸医療産業都市推進機構も、1千万円の支援を行うこととなりました。現在、コロナ治療薬については、中等症以上でレムデシビルが承認されているだけで、イベルメクチン、フサンといった有力候補の薬の承認が遅れており、コロナ治療薬としての正式な承認には至っておりません。その中で、中和抗体薬の開発は、大きく期待されています。この神戸大学の中和抗体薬開発に関し、早期に研究開発の成果が上がるよう、県市協調しながら取り組みを進め、神戸発の新型コロナウイルス感染症の治療薬の開発が成功すれば、神戸医療産業都市のプレゼンス*を高める絶好の機会となります。

*プレゼンス(Presence):「存在すること」「存在感」

現在、発熱等の風邪の症状があった場合

かかりつけ医等に電話連絡(直接訪問はしない)をしていただき、予約が取れた医院を訪問、医師の判断で抗原検査(またはPCR検査)となります。

症状はないが、PCR検査を受けたい場合

格安の 神戸花隈高架下に PCR検査センターがオープンしました!



検査試薬:国産タカラバイオ製
営業時間:10:00~17:30(年中無休)



ホームページから予約▶サービスを選ぶ▶日付を選択▶個人情報入力後、Paypalによる事前決済(5,000円)、もしくは現金払い(当日現金払いは6,000円・税込)。その支払済画面のスクリーンショットか、コピーを係員に提示します。所要時間は5~6分程度。翌日から2日で結果が出ます。陽性の場合、電話とメールで結果のお知らせが来ることとなっております。こんな所に?という場所にありますが、中に入る事なく、全て屋外でのやりとりとなりますので、心配はありません。

※前の道路の駐車は出来ませんので、お近くの駐車場をご利用いただくか、公共交通でお出かけください。

場所:神戸市中央区元町高架通2-232 (JR元町駅から徒歩7分、花隈駅からすぐ)
神戸PCRサテライト
https://setolabo.jp/kobe/

ワクチンに関するお問い合わせ

神戸市では、4月以降に、ワクチン接種券の送付が始まります。最初は65歳以上の方々、その後基礎疾患のある方々、その次は、60~64歳の方々となり、一般の方々への接種は9月頃とされています。集団接種会場(垂水区は垂水区文化センター)と、開業医などの個別接種は同時に行われる予定です。

ワクチンに関するお問い合わせは、(ワクチンのスケジュール・接種手続き・接種券の送付)

必ず、新型コロナワクチン接種コールセンター

078-277-3320

へ、お願いいたします。

受付時間:平日8時30分~20時00分(土日祝 8時30分~17時30分)
Mail: pwd-vaccine-kobecity@persol.co.jp
混雑を避けるため、神戸市では徹底したスケジュール管理をいたします。
※各病院へのお問い合わせはご遠慮ください。

アイソレーター導入が決まりました!

我が会派、高橋としえ議員の要望により、令和3年度予算で救急車にアイソレーターを導入することとなりました。

※アイソレーター:救急車搬送時の患者を運ぶ密閉式カプセルで、これにより同乗者や、救急隊員への感染の危険がなく、安全な状態で傷病者を搬送する事が可能となります。



さとうまちこ 事務所

〒655-0872 神戸市垂水区塩屋町1丁目3-11

080 2420 8727

https://www.satomachi.info/

satomachikobe10@gmail.com



Topic.2

JCRファーマ/神戸市に 新型コロナワクチン原液の新工場

JCRファーマ(芦屋市)が、神戸市との間で土地の取得契約を結び、新型コロナワクチン原液の製造工場を、西神南にある工業団地(神戸サイエンスパーク内)に建設すると発表しました。2万㎡の用地に製造棟と事務棟を建設し、2022年10月の竣工を目指します。新工場では、英製薬大手のアストラゼネカから業務受託している新型コロナワクチン原液の受託製造をする事となります。

■新工場の概要

建設地: 神戸市西区(神戸サイエンスパーク内) 用途: 工場用地
敷地面積: 1万9991.17㎡ 建物: 製造棟(地上1階建)、事務棟(地上3階建て)
総工費: 116億円 着工: 2021年7月予定 竣工: 2022年10月予定



新工場(イメージパース)

質疑 予算特別委員会

(第2分科会) 2021.3.4

福祉局

障がい者の就労支援事業所のさらなる発展について

さとう: 神戸市では、障がい福祉サービス事業所等のできることを紹介する、**ふしワザ**というウェブサイトを開設しているが、ご存知ない事業者もいたので、多くの事業者に活用していただき、仕事や商品の発注につながればと考える。このサイトに関する広報はどのように行っているか。特に、掲載対象である福祉事業所には十分伝わっているのか。

森下福祉局長: 令和2年10月に全事業所に、424事業所に一斉に登録の御案内をした。そのうちの40事業所から掲載の希望があってスタートした。その後、令和3年2月、先月、掲載していない事業所に対し、神戸市のホームページからこの**ふくしワザ**について具体的な登録の方法を個別に通知した。その結果として、数多くの問合せもいただいている。

さらに、自社製品の写真、広報の文書紹介の記事の作成方法、スキルの部分の援助も大事なので、令和3年度には、自主製品の写真撮影の仕方、紹介記事の作成方法などを専門的に専門家が指導する講習会を開催など、テクニカルな部分でのサポートも考えている。

さとう: 私の知っている**就労支援事業所**では、**民間企業とのコラボという形でお菓子を製造・販売**している。これは単なる受注関係ではなくコラボという点を発信していくことで、民間企業、福祉事業者の双方にとって非常によいPR効果をもたらせていると聞いている。**こういった事例が増えるように行政としても積極的に関わってはどうか**。福祉事業所の商品力の向上に関し、今後の取組を問う。

櫻原福祉局担当部長: 障がい福祉サービス事業所が単独で自主製品の開発や販売を行うのではなく、民間企業と連携をして事業展開をすることは民間企業にとっては社会貢献に関わるPRが可能となり、事業所にとっては精度の高い製品開発や販路の拡大につながれるという双方に大きなメリットが生じる。

ウェブサイト**ふくしワザ**を活用し、障がい福祉サービス事業所と企業側の双方に連携事例などを伝えて、PR効果を含めたメリットがあることを周知を図ってい

たい。事業者と企業の連携を促進し、福祉事業所の商品力の向上を図りながら、新たな事業展開ができるように努めてまいりたい。

重度訪問介護等における移動支援に関して

さとう: **障がい福祉サービスの一つである重度訪問介護等における移動支援**に関しては、**従来、通勤営業活動等の経済活動に関わる外出は対象外とされてきたが、国は重度障がい者等勤労支援特別事業を創設し、令和2年度以降は自治体の判断で重度障がい者が働く場合などにおいて、通勤や職場などにおける介助への支援が盛り込まれることとなっている。**

大阪市や堺市では、既に導入されており、勤労意欲のある重度障がい者の方の選択肢を増やすためには、神戸市でも導入を検討すべきと考えるが、如何か。

小林福祉局副局長: 障がい者の就労支援策については、従前より福祉施策と労働施策の連携を進めながら対応してきたが、特に通勤や職場等における支援は十分に対応できていないという状況だった。

この制度のはざまに対応するため、委員おっしゃっていただいたように、国は令和2年度から、通勤や職場等における支援に取り組む意欲的な企業や自治体を支援するため、雇用施策と福祉施策が連携した取組を行うことになっている。**さいたま市では、既に本事業実施しており、大阪市、堺市についても先に独自の支援策を経て、令和3年から本事業に移行する予定と聞いている。本市においても、先行自治体の状況を参考にしながら、これらの課題をどう整理していくか検討していきたい。**

さとう: 障がいをお持ちの方にとって、**経済活動と福祉サービスというものは切り離せるものではない**。スピーディーに御検討をお願いしたい。

視覚障がい者に対する同行支援について

さとう: 視覚障がい者になった方々が日常生活を送るには、同行支援従事者、視覚障がい者ガイドヘルパーによる支援が必要となることが多々ある。その資格は、研修で取得するものだが、実際の視覚障がい者の方からは、ヘルパーの中には、なかなか視覚障がい者の特徴を把握できず、間違った対応から事故となった例を多数お聞きしている。また、視覚障がい者になったことで外出しづらくなり、ひきこもる方も多く聞いている。

ヘルパーの数及び質の確保について、現状をどのように捉え、今後どのように取り組んでいくのか。

小林福祉局副局長: 同行支援は、視覚障がい者の方の外出時における介護を行うもので、市内で現在約900名の方が支給決定を受けている。指定事業所が179か所、推計で約450名のヘルパーが在籍し、現在のところ、ヘルパーが見つからなくてサービスを受けられないという声はない。ただ、研修受講のみで従事されているヘルパーのみなので、視覚障がい者の方の特性を十分に理解しておらず、**不十分な対応を行っているという事例があることも本市として把握している**。研修内容を充実させるというようなことを県に対して要望している。研修の充実と事業所の指導を行うということによって**ヘルパーの質を向上させて視覚障がい者が安心してサービスを利用していただけるよう今後も努めてまいりたい**。



LGBTQの方を対象とした相談窓口について

さとう: 令和3年3月に策定される神戸2025ビジョンについての素案を見ると、LGBTQなどに対する市民意識の向上を図るとの記載があるが、神戸市においてはこれまでLGBTQの理解促進や支援の取組があまり進んでいないと感じている。

LGBTQの方の中には、**いわれなき差別を受けたり、それを誰にも相談できずに苦しんでいる方が多くいる**。神戸市にはそういった当事者の声がきちんと届いているのか。例えば、LGBTQの方の専用の相談窓口を設けるなど**LGBTQの方の声の声を拾う仕組みづくり**に取り組むべきだと考えるが、如何か。

山田福祉局担当部長: **LGBTQの方の相談窓口について、本市では、性別や性的嗜好にかかわらず、その人自身が自分らしく生きていくための権利が尊重されるよ**

う性の多様性についての正しい知識を広め、差別や偏見をなくすための啓発を実施している。

LGBTQの方、御家族の方からの本市への相談状況は、平成29年度2件、平成30年度6件、令和元年度4件、令和2年度3月1日現在1件という状況でございます。私どもとしては、LGBTQの方など、様々な方の御意見を尊重することとは非常に大事な課題であると考えているので、当事者の声が十分に届いていないということなら、LGBTQの方の声を拾う仕組みとしてどのような形がふさわしいのか、検討させていただきたい。

さとう: 将来的には、そういった壁や区別なく、それが当たり前という世界を目指すべきだと思う。そういうことをなくす前のステップとして、理解を深めるということは非常に大切だが、**聞こえない声を聞くという姿勢が民間でなく、市が聞いていくという姿勢が非常に大事だと思う**。

今まで性自認少数の方は、偏見とか差別を個々の方々が感じていたから、ひとからげの相談窓口というのは、ハードルを感じて相談もされないのではないかと思う。当事者の方々に窓口を受けていただいて、親身になってお話を聞いていただけるというような体制を整えれば、分かってくれるから電話しようという気になると思う。**人口の10%ぐらいの方はそういった性自認をお持ちなのに、それしか(現在1件という状況)声が上がってないというのは、生活に困ってないから声が上がらないということではないと思う。特化した窓口を作っていただくよう要望する**。

パートナーシップ制度創設について

さとう: これは**多様化を認めるという現代社会において必須**だと思うが、神戸市としてどう考えておられるのか、お聞かせいただきたい。

山田福祉局担当部長: まずは、LGBTQの方の声をどのように拾うのかということを具体的に検討させていただきたい。

さとう: 前進的な他都市を見ながらでもいいので、その辺りしっかりとやっていただきたい。

(返答がなかったのもう一度)そして、パートナーシップ制度に関して、今どういうふうになっているのか、神戸市の考えとしてもお聞かせいただきたい。

山田福祉局担当部長: 繰り返しになるが、性別が性的志向にかかわらず、その人自身が自分らしく生きていくための権利が尊重されなければならないということの基本にし、差別や偏見をなくすための啓発を今、実施している。

他都市の取組状況も参考にしながら、世界に開かれた多様性のあるまちとしてLGBTQなどに対する市民意識の向上を図っていくこととございますので、御理解いただきたい。

さとう: **その問題とパートナーシップ制度の創設というのは、またちょっと別**。それはそれで意見を聞いていただき、実際問題として、少数派でいらっしゃる方への対策として。

いろんな他都市でももう随分パートナーシップ制度の創設はされている。**渋谷区の男女平等及び多様性を尊重する社会を推進する条例**の前文を少し読ませていただく。

令和2年福祉環境委員会

こんな質疑もしていました。【過去の記事より】

2020.8.24

さとう: 涼しくなってから来ると言われていた第2波が来た。第3波が来るということも想定される。感染者がさらに増えた場合を想定して今から十分な準備は進められているのか、前倒しで保健師の採用を進められているが、人員の確保は十分と考えられているのか。

花田健康局長: 保健師の採用については、40名増員、9月から順次採用を進めていくので、保健師の体制は増強されていく。次の波に対して今考えられることは全てやれているというふう考えている。

2020.9.24

さとう: (コロナ禍)認知症への支援策、ネットを使って遠隔で出来ないか、検討させていただきたい。

2020.10.22

さとう: このたび垂水養護学校垂水体育館用地に、産科と小児科救急を含む急性期医療を担う中核的医療機関に、市内に許可病床を持つ医療機関として医療法人沖繩徳洲会病院神戸徳洲会病院が決定され、垂水の住人として非常に期待をしている。令和7年2月の開設予定だが、地域の中核病院としてかかりつけ医である地域の開業医、クリニックの先生方、福祉関連事業所の方々との連携の構築が今以上に大切になってくると思う。徳洲会には、良質な医療提供を期待するが、神戸市は徳洲会との40年間の賃貸借契約の中で

「日本国憲法に定める個人の尊重及び法の下の平等の理念に基づき、**性別、人種、年齢や障がいの有無などにより差別されることなく、人が人として尊重され、誰もが自分の能力を生かして、生き生きと生きることができる差別のない社会を実現**することは、私たち区民共通の願いである」と、ありますが、神戸市的にはどう思われるのか。

山田福祉局担当部長: 私も全く同感でございます。

さとう: みなさん、これ当たり前のことだと思われると思う。だけど、今のままで、パートナーシップ制度の創設ということのお答えがいただけないということは、このまま神戸市、この条例の文を引用すると、**神戸市は性別、人種、年齢や障がいの有無などにより差別をし、人が人として尊敬(尊重)されていないということになる**。是非、パートナーシップへの前向きな取組をお願いする。



危機管理室、消防局への質疑(一部)

以前、街頭で、「日本の避難所はスフィア基準も満たしていない、このままじゃ、ダメなんです!」と訴えさせていただいていたのを覚えているという方もいらっしゃるかもしれません。今回の質疑において、危機管理室、消防局、防災コミュニティを含め、女性が非常に少なく、それゆえに、問題点すら抽出されていないと感じました。最後に、イタリアの避難所をご紹介して質疑を終わりました。<イタリアでは災害後、数時間で車椅子仕様の綺麗で広いトイレ、簡易ベッド(1週間通常ベッドとなる)、1,000人分の暖かい食事が作れるキッチンカーが到着します。簡易の診療所、産婦人科、小児科、歯科、子どもたちのPTSD予防のための心理療法師士を配備。簡単な手術も出来るそうです。>

現在の日本の避難所は、暗い、不清潔、寒い、そこからの犯罪の温床という悪循環を断ち切れずにいます。イタリアでも出来ている事、経済大国日本なら目指して欲しいものですね。引き続き取り組んでまいります。

環境局の質疑は載せきれませんでしたので、詳細は次回の市政報告にて。

お楽しみに。

- 今回、環境局については、
- ・温室効果ガスの削減に向けた市民の行動を促す仕組み。
 - ・プラスチックごみの削減に向けた民間事業者との連携と市民へのインセンティブ付与。
 - ・農協と連携した食品ロス削減。
 - ・路上喫煙禁止地区の拡大とばい捨て防止重点区域での過料徴収。
- などについて質疑をしています。

特に強く要望していることは何か。

熊谷健康局副局長: 神戸徳洲会病院が区内の医療機関の先生方と連携をして医療提供体制の充実が図れるように我々としても事業計画の達成状況をきっちりチェックしていきたい。

さとう: 地域の診療所にとっては近場に頼れる病院ができるということで、地域との信頼、連携が非常に大事になっていくと思う。契約締結の最初が肝心。引き続き注視してまいりたい。

2021.2.19

さとう: 神戸市にひきこもり支援の体制ができて1年ほどとなる。進捗、検証、課題などについて伺う。

松原福祉局担当部長: 令和2年2月3日に開設、1月31日までの1年間で相談人数は486人、相談件数は1,664件。相談者の年代別の状況は、10代の方1割程度、30代・25%で20代・22%。本多様な問題があるので、優先して解決すべき問題を1つ1つ行っている。

※ひきこもり問題は非常に繊細で深刻です。原因を集め、それを生かせるような取り組みなど、引き続き注視してまいります。

●神戸市議会録画→インターネット中継→委員会→録画映像の検索で、さとう)と入力して頂くと、映像もご覧いただけます。



http://www.kensakusystem.jp/kobeshikai-committee/search/index.html